

【井手町】
校務DX計画

1. 趣旨

井手町では、GIGA スクール構想に基づき、令和元年度から ICT 環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、井手町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2. 井手町における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、井手町における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

(1) GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

校務DX化チェックリストの結果によれば、「教職員が作成した教材等を校務サーバー上で共有する」ことは多くの学校で実施されています。職員会議等における資料のデータ共有による会議のペーパーレス化も一定成果をおさめています。FAX・押印については学校現場の希望に沿いながら使用を求める場面を精選していきます。その一方でGIGA環境によるデータ共有の即時性を活用した情報共有には課題があり、汎用クラウドツールのさらなる活用を進める必要があります。

(2) 教育情報セキュリティポリシーの必要性

教育現場の現状に即した教育情報セキュリティポリシーの策定が行われていない状況にあります。

今後は、国の方向性や現状を的確に把握し、クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が求められます。また、学校では児童生徒に関する多様な情報が日常的に活用されていることを踏まえ、児童生徒の存在や情報の多様性・多目的性を十分考慮した情報セキュリティ対策を講じることが重要であるため、まずは教育現場の実情に合った現実的で実効性のある教育情報セキュリティポリシーの整備を進める必要があります。

3. 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取り組みを以下のとおり進めます。

(1) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を早急に軽減するため、まずは既存の業務支援システムの活用方法を研究・実践します。また、コミュニケーションツールを活用し、児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、不必要な手入力作業の一掃等の校務効率化をさらに推進していきます。

(2) 教育情報セキュリティポリシーの策定

AIドリル等のクラウド活用を前提に、それに適したセキュリティレベルを確保しながら、データ利活用や個別最適な学びなど、新たな時代にふさわしい教育DXの基盤を構築するため、教育現場の現状を踏まえ、「教育情報セキュリティポリシー」の策定を計画します。